

29年度市政執行方針

「活気に満ちたまち、歩いて楽しいまち、訪れたいくなる美しいまち、住む人にやさしいまち」をめざして

工藤市長は、第1回函館市議会定例会において、29年度の市政執行にあたり、その所信を明らかにしました。（要約を掲載します）



市長 工藤 壽樹

はじめに

本年は新しい時代に踏み出す「ポスト新幹線元年」です。経済の再生はもとより、福祉や教育などさまざまな分野で施策を展開し、まちづくりを進め、まちの魅力さらさら高めていかなければなりません。その原動力は市民一人ひとりのまちへの誇りと愛着です。人口減少という現実を直視しながら、自らの創意により郷土発展の夢を描き、まちづくりを担う「人への投資」が必要となります。

私は、次の時代を担う子どもたちや若者が郷土への誇りと愛着を持ち、このまちで生きていく姿を思い描き、市政に取り組んでまいります。

市政のテーマと重点的な取り組み

私は、「活気に満ちたまち、歩いて楽しいまち、訪れたいくなる美しいまち、住む人にやさしいまち」をめざし、

● 交流人口の拡大

● 若者の雇用創出

● 少子化対策

● 高齢者の安全・安心

の4つのテーマを掲げ、まちづくりに取り組みます。特に、

● 美しい町並みを整備し、町全体が公園となる「ガーデンシティ函館」の実現

● 食の魅力を生かし、グルメのまち・美食のまちをめざす「食の産業化」の推進

● イベントを体系化・組織化し、年間を通して連続させていく「フェスティバルタウン」の形成

● 新幹線や幹線道路、港湾、空港がコンパクトに揃う陸・海・空の交通の有機的な活用

の4点に重点的に取り組みます。

主要施策の推進

1 函館の経済を元気にします

交通の要衝としての優位性を生かし、地場産業の振興や企業誘致、交流人口の拡大に取り組み、地域経済の活性化や雇用の創出など、経済の再生に繋がる取り組みを進めてまいります。

観光振興では、食と観光の一体的なプロモーションを展開するとともに、冬季観光客誘致を強化します。

海外では、中国、台湾、シンガポール等でのプロモーションのほか、中国向け観光PR動画の配信など、函館の知名度向上に努めます。また、ハリファックス市との姉妹都市提携35周年等を記念した相互訪問事業を実施するとともに、整備が進む若松ふ頭の利

用促進に向け、フロリダ州でクルーズ客船誘致を行うなど、カナダ、アメリカでのシティセールスを実施します。

水産業では、漁港、漁場の整備や種苗放流事業などによるつくり育てる漁業の促進研究機関と連携したホッケ資源量減少要因や回復の研究などに取り組み、農業では、農作物の収穫および出荷体制の強化や新規就農者の支援に取り組み、生産者の経営安定や担い手確保に努めます。

「食の産業化」では、ほこだて美食フェスタの継続開催や美食ポータルサイトの構築などに取り組みます。物産の販路拡大では、台湾で本市単独の物産展を開催するほか、ふるさと納税について、特産品を返礼品として充実させ全国へ情報発信するなど、地場産品の消費拡大を図ります。

商工業の振興では、元氣いっぱい商店街等支援交付金を拡充し商店街の活性化を図るほか、引き続きイカ加工業者向けの低利融資の措置を講じます。企業誘致では、引き続きIT企業の誘致を進めるほか、市外企業の工場新設等に対する支援を拡充します。

2 子どもたちと若者の未来を拓きます

一人でも多くの市民が安心

して子どもを産み育てることができ環境を整備し、子ども・子育てに関する施策を総合的に推進するとともに、郷土函館を大切にすることを育み、自らの夢に挑戦し、未来を切り拓く力を養うための取り組みを進めてまいります。

子どもに関わる施策では、社会参加を促進する「函館市子ども会議」を開催するほか、いじめ、虐待等の未然防止や早期発見と迅速かつ適切な対応を図るため、「子どもなんでも相談110番」を拡充するとともに、いじめ等に対応する相談員を増員します。

子育て支援では、幅広い情報を提供する「子育てアプリ」を導入するとともに、子育て世帯向け住宅の供給やヤングファミリー住まいりんぐ支援事業の推進など住居費負担を軽減するほか、子どもの貧困対策に向け、子どもの生活実態調査を実施します。

また、不育症の治療に対する助成制度の新設や産後うつ予防などのための新たな産婦健康診査を実施するなど、子育て世代の経済的・心理的な負担の軽減に努めます。

学力向上に向けては、非常勤講師を中学校に加え小学校にも配置するほか、アフタースクールの拡充等を実施します。また、返済を必要としない奨学給付金制度を創設し、経済的な理由により修学が困

29年度予算の主な内容

《新》は新規事業

1 函館の経済を元気にします

- 国内観光プロモーション実施経費(《新》函館冬季観光誘客経費ほか) 2,998万3千円
- 海外観光プロモーション実施経費(《新》中国向け観光PR動画配信ほか) 2,322万2千円
- 《新》カナダ・アメリカシティセールス実施経費 490万2千円
- 姉妹都市交流推進費 540万円
- ツール・ド・北海道2017開催補助金 80万円
- 函館マラソン大会開催負担金 3,600万円
- スポーツ合宿誘致補助金(43団体→50団体) 400万円
- 函館フットボールパーク移転改修事業費 1億1,728万円
- 沿岸漁業構造改善対策事業費補助金 9,548万5千円
- 水産海洋研究連携推進事業費 700万円
- 農作物集出荷貯蔵施設整備事業費補助金 563万5千円
- 市有林整備費 3,606万4千円
- 《新》食の産業化推進費 1,800万円
- 《新》ふるさと納税関係経費 1億2,000万円
- 国内販路拡大促進費 617万1千円
- 海外販路拡大促進費 213万3千円
- 《新》台湾物産展参加経費 330万円
- 元気いっぱい商店街等支交代付金(課題解決型事業への支援制度を新設) 3,804万円
- 中小企業金融対策費 97億4,521万円
- IT技術者人材育成支援補助金 1,100万円
- 企業立地促進条例補助金(市外企業の優遇制度強化) 1億9,000万円

2 子どもたちと若者の未来を拓きます

- 子ども条例推進事業費(《新》子ども会議の開催ほか) 113万9千円
- 《新》函館TOM向上推進費 50万円
- はこだてみらい館・はこだてキッズプラザ関係経費 2億2,319万8千円
- 《新》函館コミュニティプラザ関係経費 6,340万6千円
- マザーズ・サポート・ステーション事業費 320万1千円
- 《新》産婦健康診査事業費 1,364万2千円
- 子育て支援推進事業費(《新》子育てアプリの導入ほか) 8,797万1千円
- 特定不妊治療助成事業費(《新》不育症治療の助成制度を新設) 3,427万7千円
- ヤングファミリー住まいりんぐ支援補助金 1,506万円
- 子育て世帯空家等改修事業補助金 300万円
- 《新》保育士就職支援研修事業費 120万円
- 《新》子どもの生活実態調査費 340万円
- 入学準備給付金(小中学校) 4,550万6千円
- 《新》奨学給付金(H30から給付開始) 8万4千円
- 教育振興基本計画策定経費 240万円
- コミュニティ・スクール推進事業費 30万7千円
- 学力向上推進事業費 2,832万8千円
- 家庭児童相談関係経費(《新》子ども専用フリーダイヤルの開設) 63万8千円
- いじめ・不登校等対策推進費(相談員増員1名→2名) 433万9千円
- グローバル人材育成事業関係経費 2,262万7千円
- 義務教育施設整備費(中学校校舎等新築事業費ほか) 24億608万円
- 地域放課後児童健全育成事業費(54クラブ→56クラブ) 5億2,146万7千円
- 《新》フッ化物洗口関係経費 60万2千円
- 未来のIT人材育成推進費(プログラミング教室の拡充、《新》指導者の人材育成) 660万円
- 《新》若者の創業支援事業費 100万円
- 中心市街地事務所立地促進費(補助要件の拡充) 294万4千円
- 女性の再就業支援事業費(一般就労支援を強化) 1,680万円
- 男女共同参画推進費(《新》第3次男女共同参画基本計画の策定) 261万2千円

3 市民の安全・安心を守ります

- 大間原発訴訟関係経費 627万1千円
- 防災対策経費 5,099万3千円
- 福祉コミュニティエリア整備推進費および関連事業費 1億254万4千円

難な大学生を支援します。

子どもの健全育成では、保育士資格を有する未就業者の就職支援や、放課後児童クラブの拡充とともに、地域の支援者を活用し、中学校の部活動の充実を図ります。

また、学校再編に伴う中学校校舎の新築や潮見中学校校舎の改修など、教育環境の整備を進めます。

このほか、函館の歴史と魅力、現状などへの理解を深める取り組みを進め、次代を担う子どもたちのまちに対する誇りや愛着を育みます。

若者の就労支援では、IT人材育成等に向けたプログラミング教室の拡充のほか、創業者との交流など若者の創業支援に取り組むとともに、中

心市街地の空きオフィスを活用する事業者に対し、支援内容の拡充を図り、若者の雇用機会の拡大を図ります。また、女性の就労支援に向けた企業の就業環境を整えるコンサルティング等を実施します。

心市街地の空きオフィスを活用する事業者に対し、支援内容の拡充を図り、若者の雇用機会の拡大を図ります。また、女性の就労支援に向けた企業の就業環境を整えるコンサルティング等を実施します。

3 市民の安全・安心を守ります

日吉町4丁目での福祉コミュニティエリアの本格的な整備がはじまるなか、今後とも保健福祉や防災対策等の分野で、市民がともに支え合い、子どもから高齢者まで誰もが健康で安心して暮らせるまちづくりを進めてまいります。

健康の維持・増進では、が

ん対策をはじめ、たばこ対策、生活習慣病予防、食育など、一層の充実を図り、市民の健康寿命の延伸をめざします。

高齢者の保健福祉では、「地域包括ケアシステム」の構築をめざし、医療・介護連携支援センターの開設や地域住民グループの支援などのほか、介護予防・日常生活支援総合事業を円滑に実施するとともに、介護人材の確保に向けた取り組みや、認知症の方や家族の支援に努めます。

障がい保健福祉では、障がいのある方への地域生活における支援体制の充実や社会参加の拡大に努めます。

市民活動の促進では、亀田地区統合施設の整備に向けた実施設計を行うほか、町会の

備品整備の助成を利用しやすい内容に変更します。

女性に関する相談・支援について、DVに加えストーカー被害等にも対応できるよう相談体制を拡充するほか、関係機関と連携し、性暴力被害者に対する支援体制の構築に努めます。

防災対策では、最新のハザードマップを閲覧できるサイトを公開し、情報提供体制を強化します。公共施設の耐震化では、市役所本庁舎の改修や戸倉中学校屋内運動場の改築を行うほか、民間大規模建築物の耐震改修費用の一部を助成し耐震化を促進します。

空き家の対策では、重点対象地区における空き家の解消等を促進するため、解体や改

修費用の一部を助成します。

大間原子力発電所の建設差止訴訟については、建設の無期限凍結実現に向けて、これからの強い決意を持ち対応してまいります。

4 まちの魅力をさらに高めます

デザイン性に配慮した町並みの整備に取り組むなど、市民生活と観光などが融合した回遊性の高い、そして訪れるたびに新たな発見があるまちづくりを進めてまいります。

「ガーデンシティ函館」では、中臨港通や末広地区緑地の整備のほか、新たに函館山遊歩道の再整備を進めます。

○高齢者・障がい者にやさしい道づくり事業費	2,000万円
○《新》介護予防・日常生活支援総合事業費	7億8,565万9千円
○在宅医療・介護連携推進事業費	2,962万7千円
○《新》介護職員研修受講促進支援事業費	250万円
○健康づくりプロモーション実施経費	130万円
○女性相談関係経費(相談体制の拡充)	131万7千円
○《新》性暴力被害者支援関係経費	150万円
○国民健康保険事業(1人当たり平均保険料据え置き)	367億1,574万円
○本庁舎耐震改修事業費	5億3,343万5千円
○《新》南茅部支所庁舎耐震診断調査費	420万円
○特定建築物耐震化支援事業費	9億4,395万1千円
○空家等対策推進費	857万円
○《新》公営住宅建設費(大川団地)	5,300万円
○交通事業建設改良費	4億14万7千円
○上水道整備事業費	10億8,843万2千円
○下水道整備事業費	19億2,814万6千円
○生活排水対策費	1,626万4千円
○河川改修事業費	3億3,260万円
○消防自動車購入費(化学消防ポンプ自動車ほか)	1億6,670万円
○新廃棄物処理システム構築関係経費	850万円
○亀田地区統合施設整備事業費	7,645万4千円
○町会交付金	6,962万2千円
○町会会館建設費補助金(5館)	816万7千円
○町会備品設備整備費補助金(16団体)(補助下限額の引き下げ)	374万2千円
○街路灯設置費補助金	9,655万2千円
○街路灯電灯料補助金	8,178万4千円

4 まちの魅力をさらに高めます

○グリーンプラザ整備事業費	1,340万円
○電車停留場整備事業費(千代台・松風町)	1億1,000万円
○函館駅前通整備関係経費(電線類地中化、歩道整備ほか)	9,255万9千円
○特別史跡五稜郭跡環境整備事業費	1億4,520万円
○重要文化財函館ハリストス正教会復活聖堂 保存修理事業費補助金(耐震診断)	186万6千円
○史跡垣ノ島遺跡整備事業費	6,480万円
○縄文シティサミット開催負担金	130万円
○観光客受入環境整備経費 (《新》外国人観光コンタクトセンター開設経費ほか)	4,107万1千円
○《新》フェスティバルタウン推進経費	330万円
○港まつり開催負担金(シンガポールとの 観光姉妹提携25周年記念の特別企画を実施)	2,490万円
○函館駅前花いっぱい業務委託料	1,468万8千円
○道南いさりび鉄道株式会社経営安定化補助金	736万6千円
○道路橋梁新設改良費(中臨港通整備ほか)	21億4,833万円
○街路整備事業費	8億2,970万円
○《新》函館山遊歩道整備費	2,000万円
○公園等整備費	1億7,580万円
○港湾施設整備費(若松地区岸壁整備ほか)	14億220万円
○《新》航路体系調査経費	3,800万円
○函館港利用促進関係経費	3,495万円
○函館空港整備事業費負担金(用地造成、滑走路改良ほか)	1億1,370万円
○《新》函館空港国内線活性化協議会負担金	1,000万円
○函館空港国際航空便就航促進事業補助金	1,055万1千円
○交通系ICカードシステム整備費補助金	832万2千円
○IT人材確保セミナー開催経費	110万円
○IJUターン事業推進費	190万9千円
○立地適正化計画策定経費	1,350万円

5 行財政改革と広域連携の強化に努めます

○《新》広域観光連携推進経費	200万円
○青函圏観光都市会議負担金	150万円
○道内周遊ルート構築関係経費	300万円
○道南ドクターヘリ運航経費	968万7千円

中心市街地では、本町地区の複合ビル内に「函館コミュニティプラザ」をオープンするほか、函館駅前の市有地では、民間活力による宿泊施設と商業施設の一体的な整備を促進します。また、函館駅前の電線類の地中化の促進や歩道のグレードアップのほか、グリーンプラザは、人の集まる場所としての再生をめざし基本設計を行います。

安心して観光ができる環境の整備を進めます。

歴史的な町並みの保存では、五稜郭跡の保存整備や、垣ノ島遺跡の整備を進めるほか、縄文シティサミットの開催などにより、縄文文化の啓発を図るとともに、縄文遺跡群の世界遺産登録に向けた取り組みを推進します。

交通体系の整備について、高速道路網では、北海道縦貫自動車道や函館・江差自動車道、函館新外環状道路の着実な整備と松前半島道路の事業化を国に要望します。港湾では、若松地区の旅客船ふ頭の早期供用を国に要望するほか、客船誘致に向けた積極的なポートセールスを展開し、「みなとまち函館」の復活をめざ

「フェスティバルタウン」の形成では、市内のイベント情報を集約し、その魅力を広く発信します。観光客の受入体制では、観光ガイドのスキル向上などの人材育成に取り組みほか、外国人観光客の相談にきめ細かく対応する「コンタクトセンター」を開設し、

航空路線網では、新規就航する国際定期便などに対する着陸料を助成するとともに、新たに国内線の新規定期便就航に対する着陸料を経済界とともに支援し、国内外の路線就航を促進します。

公共交通では、市電と函館バスで導入されるICカードシステムについて、新たに定期券システムや高齢者・障がい者の交通料助成システムを整備するほか、市電の超低床車両への更新、千代台と松風町の停留場の整備、バス路線網の再編や交通拠点整備に向けた取り組みを進めます。

移住者等の誘致では、首都圏でセミナーを開催するほか、就職ポータルサイト「函館しごとネット」を活用しIJUターンを促進します。

5 行財政改革と広域連携の強化に努めます

財政再建に向け、行財政改革を積極的に進めてまいりましたが、市税や地方交付税の減少や社会保障関係経費の増加など厳しい財政状況が今後見込まれることから、不断の行財政改革に取り組みます。

広域連携では、青森市、弘前市、八戸市と連携する青函圏観光都市会議による都市間連携の強化とともに、さいたま市や宇都宮市など新幹線沿線地域と連携し、広域観光ルートの形成に努めるほか、札幌市、登別市と連携し

「まちを大切に 人を大切に」
自分から生きる函館市民の真の豊かさは、こうした思いが積み重なって実現することができま

むすび

私は、このまちに住む誰もが幸せと豊かさを感じ、未来に夢と希望を持ち続けることができるよう、まちづくりに全力を尽くし、函館再生の道を、函館の未来を、皆様とともに切り拓いてまいります。

皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。